Case Study

韓国コンテンツ振興院 / コンテンツ産業情報ポータルシステム構築

I-ONの「ICS5」を導入し、コンテンツ統合事業が完了。Webアクセシビリティ認定とモバイル対応に大満足

膨大なコンテンツの完璧な統合でサービスの高度化

KOCCA（韓国コンテンツ振興院）は韓国コンテンツ産業を育成する機関として、企業や産業全分野でコンテンツを制作する際、企業や産業で必要とするサポートを提供し、研究資料を共有するなど、コンテンツの輸出と流通に力を入れている。

「韓国放送映像産業振興院」、「韓国文化コンテンツ振興院」、「韓国ゲーム産業振興院」、「文化コンテンツセンター」、「韓国ソフトウェア振興院」、「デジタルコンテンツ事業団」などで分離・運営されてきた５つの関連機関を統合して発足したKOCCAは各機関が行っている事業とサービスを統合し、体系的に一元化された支援政策と各種事業を遂行している。

それに加え、各機関で提供されていたコンテンツを総合してサービスするため、「コンテンツ産業情報ポータル」をオープンした。このサイトはコンテンツ産業に携わっている人や企業、利用者が自分に必要なコンテンツを簡単に調べて利用し、対内外に自分のコンテンツを発信する機会を与えている。

KOCCA基盤造成本部・情報サービスチームのチーム長であるキム・ヒョンミン氏（以下、キム氏）は“2009年、5つの機関が統合されてからも‘統合”とは名ばかりでシステムが別々に運営されていた。そのため、情報が分散・システムの利便性が大幅低下した。このような問題を解決するために、サービス水準を高めてコンテンツをより体系的で安全に管理できるポータルサイトの構築を決めた。”と語った。

韓国コンテンツ振興院（院長 イ・ジェウン www.kocca.kr 以下，KOCCA）は2009年、韓国コンテンツ産業の発展のため、韓国放送映像産業振興院、韓国文化コンテンツ振興院、韓国ゲーム産業振興院、文化コンテンツセンター、韓国ソフトウェア振興院、デジタルコンテンツ事業団など５つの関連機関を統合して発足した。KOCCAは韓国内のコンテンツ産業発展のための様々な支援策を提供しながら、韓国が世界5大のコンテンツ大国となることを目的としている。その目的達成に向けた努力の一環として、5機関のサイトを統合して韓国コンテンツの全分野を網羅する総合ポータル「コンテンツ産業情報ポータル」をオープンした。

５機関のコンテンツ分類体系作りが'至急'

KOCCAはコンテンツ産業情報ポータルの構築事業を進めるにあたって、5機関のコンテンツを体系的に分類し、Webアクセシビリティを向上させることを最も重視した。利用者が最も多く求める情報を迅速に提供し、比較的に利用頻度が低い情報も、必要な時、簡単に調べて使えるように情報分類体系を作る必要があった。

また、堅苦しい専門的なサイトではなく、デジタルコンテンツの感性的な特徴に最適したサービスを提供することで様々な利用者のニーズを満たそうとした。このためにテーマ館やアニメーション上映館、取材・インタビュー形式の記事、コラムなどを掲載している。それに加えて、モバイルサービスを提供するためにモバイルWebサービスを一部提供している。

KOCCAは今回の事業を進めるにあたって、I-ON Communications（以下、I-ON）のコンテンツ管理システム 'ICS5（I-ON Content Server 5）'を導入した。ICS5は韓国No.1のCMSソリューションであり、GS認定、行政電算網ソフトウェアに認定、ISO9100認定などで、品質の優秀性が検証された。また、大型コンテンツサービスサイトや公共機関がコンテンツ管理の優秀性を認めた。

キムチーム長は「国内で提供されているCMSソリューションを多角的に検討したところ、I-ONは導入実績NO.1のシェアを獲得し続けているだけあって、技術力とサービスサポート力、プロジェクトの遂行能力などで非常にいい評価を得た"と説明した。

特に、I-ONが多くの大規模のCMS事業を成功的に終えてきた豊富な経験は、今回の事業を行う際にとても役に立った。「コンテンツ産業情報ポータル」の構築事業はKOCCAの創立1周年記念のために準備されたものであり、着手からサイトオープンまでのおよそ1ヶ月という短い期間で、プロジェクトを成功させる必要があった。この期間内に、5機関のコンテンツを体系化できる基準を作って分類＆システムを構成し、Web標準を守りながらウェブアクセシビリティを備える必要があった。

キムチーム長は、「1ヶ月余りの期間で、既存のシステムを統合する必要があったので、全部新たに開発するのは難しかった。I-ONは試演の場で直接複数のサイトを一つに統合して見せてくれた。それが、I-ONなら決まった期間内にきっと弊社の望みをかなえてくれるとの確信へつながった」と明かした。

ジョン・ウヨン次長（以下、ジョン次長）は「ICSの技術もとても優れていた。管理者の介入を最小限に抑えながらコンテンツを効率よく運用でき、拡張性も抜群だ。今後、２次事業の遂行においても、持続的なコンテンツの管理ができると判断した。」と付け加えた。

ポータルの構築過程において、真っ先に推進したのが情報分類体系を確立し、コンテンツの管理フレームを設定することだった。性格の異なる５機関のコンテンツを統合する作業だけあって、コンテンツを判断する価値と基準も、さらに利用者の性格も異なるため、客観的な基準作りに相当苦労した。

ジョン次長は「KOCCA内部でそれぞれの専門家と担当者が一緒に分類体系を作り、この過程でI-ONのコンサルティングサポートが行われた。I-ONは、他機関・企業の事業遂行経験をもとに体系的な分類体系の確立のためにアドバイスをしてくれた。このアドバイスのおかげで、長引くことなく決まった期間内に終えることができた」と話した。

持続的なモニタリングで利用者満足

「コンテンツ産業情報ポータル」はKOCCAが目指すところをより明確に示す機会となり、韓国国内はも

ちろん、海外にも韓国コンテンツ産業の成長可能性を効果的に発信する手段となっている。これにより、他機関からもコンテンツ提携を依頼する事例が増えている。現在、韓国マスコミ財団、キョボ生命等の５機関とも了解覚書を締結し、コンテンツを提携している。

加えて、KOCCAはポータルで月２回のウェブジンを発刊して広報しており、１４万８０００余りの会員に毎日コンテンツ産業と関わるニュースレターを送って利用者にコンテンツのアウトリーチサービスを提供している。これとともに、「利用者が求めるコンテンツは何か」を持続的にモニタリングし、専門家の助言を得てサービスするコンテンツの種類を増やし、品質も高めている。

キムチーム長は“コンテンツ産業情報ポータルは単純にKOCCAのホームページではなく、産業界で必要とする情報を提供するため構築したもので、企業や利用者必要とする情報と、情報にどう反応するかについて注視している”と説明した。

運用の効率がよくなったことはとても重要な事実である。分散されていた情報をまとめて管理することにより、管理業務が減り、ITシステムも効率よく運用できるようになった。

去る１０月にはウェブアクセシビリティの優秀性を認定する「WA認証マーク（Web Accessibility Certification Mark）」を獲得。障害者・高齢者を含む誰もがウェブページを支障なく利用できるように国家標準指針に従っている。

これはI-ONのICS5のウェブアクセシビリティモジュールのおかげである。このモジュールでウェブアクセシビリティ関連指針の違反事項が認知でき、改善できるので、初期開発段階からウェブアクセシビリティ基準を満たすことができた。

ジョン次長は「サイトの構築期間が短いと、ウェブアクセシビリティなどの問題は軽く扱って、まずサイトをオープンしてから、追加作業で進めるケースがほとんどである。しかし、今回のポータル事業は初めからウェブアクセシビリティとウェブ標準を徹底的に守ったため、各開発段階をガイドラインに基づいて成功裏に実行することができた」と説明した。

2次事業で核心コンテンツを拡充

キムチーム長は「保有するコンテンツの量を前面に押し出す時代は終わった。良質のコンテンツをどうサービスして品質を高めるかが大事だ」とし、「1次事業ではコンテンツを入れる器を作ることに成功した。来年の2次事業では核心コンテンツを選別し、その器に入れる方法を高度化する」と言った。

彼は「スマートフォンやタブレットなどモバイルデバイスが多様になるにつれて双方向コミュニケーションがどんどん重要になる。ポータルサイトもまた、検索と情報提供といった単純な機能ではなく、顧客とのコミュニケーションを通じて顧客のニーズを満たすべきである」とし、「時々刻々と変わる利用者のニーズを満たすためには、絶えず努力し続けなければならない」と強調した。